

AKG K1000 について

AKG とは"Akustische u. Kino Geraete"の略ですが、これは英語に直すと"Acoustic and Cinema devices"となります。

AKG はその名のとおりに映画館に映写機とスピーカーを提供する会社としてウィーンで創立されました。第二次世界大戦直後のことです。AKG はそれからずっとウィーンを拠点としてきました。

ヘッドホンも 1949 年から半世紀近く製作しているわけですが、その歴史の中で K1000 は 1989 年にリリースされて以来 16 年ものあいだ AKG のヘッドホンのハイエンドモデルでした。しかし他のヘッドホンと比べてかなり特徴的なためフラッグシップとしてよりは特別なモデルとして考えられていたと思います。

まずはじめの特徴は普通のヘッドホンでは必ず存在するハウジングがなくトランデューサー(発音体)がむき出しになっているということです。AKG のカタログから抜粋すると、この方式の利点は大きくふたつあります。

ひとつはこれによりハウジングの響きの干渉のない音を得ることができます。このことは良く考えるとかなり画期的です。ヘッドホンは音が直接耳に入るダイレクトリスニングとは言いますが、実際はハウジングの影響を大なり小なり受けて(それを逆に生かす場合もありますが)音が変わります。またスピーカーではルームアコースティックの影響を受けますから、K1000 はある意味理想的なダイレクトリスニング環境といえます。

もうひとつは立体感とか定位に関するメリットです。完全にオープンにすることによって左の発音体から発した音が右の耳にも入るために自然にクロスフィードのような効果を持ちます。またヒトの外耳には音を集める際にスペクトル定位の手がかりを与えるという役割があるそうです。つまり外耳にきちんと音を当てることで立体感を生む要素ということです。K1000 は単にハウジングがないというだけでなく、両方のトランデューサーがウイングのように開く構造になっています。これはこのように外耳に音を正しく当てる角度を調節するという目的もあるように思います。

自然な音を作るというのは K1000 の開発テーマであり、それを実現するためにマイクによって音の解析をしながらトランデューサーの設計をしていたとのこと。

次の特徴は K1000 が非常に鳴らしにくいヘッドホンであるということです。

インピーダンスは 120Ω とやや高め程度ですが、能率(感度)が 74dB と異常といえるほど低くて普通のヘッドホンアンプではうまく駆動させることができません。例えば普通のヘッドホンは低くても 95dB 前後で、普通は 100dB 前後です。95dB であればかなり鳴らしにくいといわれるでしょう。ちなみにスピーカーでも 86-95dB が普通です。(スピーカーの場合

は 95dB だと鳴らしやすいといわれます)

その代わりに駆動力の問題を克服さえすればここが最大の強みにもなります。

これらの点から **K1000** は標準的には **CDP/アンプ** のヘッドホン端子やヘッドホンアンプではなく、普通のスピーカー用のアンプで駆動することが推奨されています。そのためヘッドホン端子ではなくスピーカーターミナルに接続することになります。

(以前は **K1000** の専用に **AKG** からヘッドホンアンプが発売されていました。これはドイツの **SAC** というメーカーが開発しました)

K1000 はケーブルコネクタが普通の 1/4 ステレオジャックではなく、**XLR** 端子で 4 ピンであることも特殊な点です。普通の **XLR** 端子は **LR** 別でそれぞれ 3 ピンですが、**K1000** は **LR** とも共通のひとつの端子で 4 ピンです。これはそのままスピーカーの **L+,L-,R+,R-** に相当します。スピーカーにはさらにこの 4 ピン **XLR** 端子に接続する **XLR** メス端子を介してスピーカーケーブルが延びている付属アダプターを使います。**SAC** のアンプには **XLR** 端子のまま接続できます。これは 4 極端子となるためチャンネルセパレーションにも有利に働くと思います。

このように **K1000** は普通のヘッドホンのように、買ってきてそのままオーディオのヘッドホン端子につなぐというカジュアルなやり方が通用しないので注意が必要です。

K1000 は伸縮するヘッドバンドがあり、それなりに頭にフィットします。ハウジングがないため、頭に対してはこめかみのところのサポートと頭頂部の 3 点で支えます。頭頂部は一点ではなく、ある程度の幅をもっているので一点が圧迫されるという感触はありません。重量はハウジングがないのでそれほど重くありませんが、こめかみにサポートがあることで違和感を覚えます。ただ私の場合は音楽が鳴り出すとあまり気にならなくなります。

3 時間くらいかけているとさすがにやや締め付けを感じますが、ハウジングがないことで蒸れないので、ここは普通の方式と一長一短だと思います。

K1000 のパッケージには格納のための立派な木箱が付属してきます。生産はたしか手作りでひとつひとつにシリアルが付きます。

2007/2/24

ささき

hiro@sasaki.cc